

第 4 部

外部有識者事業評価 委員会による2次評価



外部有識者事業評価委員会による 2次評価について

JICA評価検討委員会委員長 理事 黒木雅文

JICAは、2002年度から外部有識者事業評価委員会を設置し、外部の有識者のご助言を得つつ、評価体制の強化と評価結果の活用を通じた事業改善に取り組んでいます。その一環として、評価結果の透明性と客観性を高めるために、2003年度から、JICAが実施したプロジェクト終了時評価の評価（2次評価）を外部有識者事業評価委員会に行っていただき、その結果を「事業評価年次報告書」において公開してきています。4回目にあたる本年度も、外部有識者事業評価委員会のもと、日本評価学会のご協力を得て、評価に精通した外部第三者からなる作業部会を設置して、2次評価を行っていただきました。次ページ以降に、その結果を掲載しています。

2次評価では、まず、JICAが2004年度および2005年度に実施した終了時評価（1次評価）の質はどうか評価されました。また、1次評価の報告書に盛り込まれた情報に基づき、外部第三者による各プロジェクトの評価が行われました。さらに、これに加え新たな試みとして、過去の2次評価の結果を踏まえて7案件を選び、外部有識者事業評価委員会の委員の方々に実際に現地調査も行っていただきました。

評価の質については、9つの評価項目中の8項目で、評点の平均が5段階の3以上のレベルを満たしており、また、2003年度に比べて2004年度、2005年度の方が終了時評価の質が向上しているという評価をいただきました。一方、報告書において、調査団の構成や被援助国の調査への参画度についての記述、図表の活用などが不十分である、在外事務所による評価の質の向上のための取り組みが必

要であるなど、JICAとして改善すべき事項の指摘がなされています。

プロジェクトの評価についても、5つの評価項目のいずれにおいても評点の平均が5段階の3以上であり、また、2003年度に比べて2004年度、2005年度のプロジェクトの方が、高い評点となりました。今後プロジェクトの質をより高めるためのポイントとして、「妥当性」における「手段としての妥当性」の吟味が必要であること、「効率性」における「費用対効果」の視点を強化することなどが提言されています。

外部有識者事業評価委員会の委員による現地調査の結果、2次評価の手法は基本的に適切・有効であることが確認されました。あわせて、2次評価の有効性をさらに高めるために、終了時評価報告書の記述内容・方法を改善するための取り組みや、2次評価に使用するチェックリストの内容の見直しなどが提案されています。

JICAとしては、こうした第三者の視点からの2次評価結果を踏まえて、より効果的・効率的な事業の実施と、事業評価の改善に取り組んでいく所存です。とりわけ、在外事務所の評価能力の向上や、費用対効果にかかる評価手法の開発についての取り組みを進めてまいります。

最後になりましたが、45冊（過年度分も含めると60冊）にのぼる終了時評価報告書をさまざまな角度から吟味のうえ、工夫を凝らして2次評価を実施し、貴重な提言を下された外部有識者事業評価委員会及び2次評価作業部会の皆様に心より感謝申し上げます。